



7月ほけんだより



6月も暑い日が多かったですね。「暑さ指数」を参考にしながら、散歩や水遊びを楽しんだことも多い。すでに「手足口病」の流行がピークになっている地域もあります。夏も様々な感染症が流行しやすい日々です。高温、多湿の気候で体が疲れているので、引き換え、栄養、睡眠、休息もしっかりと取るようにしていきたいです。

気をつけよう!! 夏にはやる病気



① ヘルパンギーナ

高熱と口の中の痛み。時にのどは水疱や潰瘍ができるため、かなり痛む（辛い見方はミルクが飲めないほど）

・発熱や重症の口内炎がひどく、普段の食事がとれない事、全身状態が良くありません

登園届の提出が必要ですが



④ 流行性角結膜炎（はやり目）

まぶたのはれや異物感、痛み、充血。目やにで目が開けられなくなる。発熱や下痢を伴うこともある

・ウイルス性の角結膜炎の中で最も感染力が強く、タオルの共有や手指の接触などによっても感染する
・結膜炎の症状が消失してから主治医意見書の提出が必要ですが



② 手足口病

手のひらや足の裏、膝やお尻、口の中に小さな発疹や水疱ができ、熱が出ることも。原因となるウイルスによって皮膚や爪がはがれてくることもあります

・発熱や重症の口内炎がひどく、普段の食事がとれない事、全身状態が良くありません

登園届の提出が必要ですが



⑤ 伝染性軟属腫（水いぼ）

肌の色に近い、単黄褐色の半透明の小さい発疹が徐々に大きくなり、中央部が少しぼみつきやっやいてくる。範囲が広がりやすい

⑥ 伝染性膿疱性疹（とびひ）

傷口などにブドウ球菌などが感染し、初めは透明な水疱ができる。じきに自壊してきて破れ、皮膚が化膿した状態になる。じくじくして膿が健康な皮膚につくことにより、化膿部位が広がっていく
→「とびひ」と言われる由来

★ 青写真の部分が基本的な登園のめやすになります

★ 登園届：保護者が記入 主治医意見書：医師が記入

③ フォール熱（口咽頭結膜熱）

高熱と口の中の痛み、目の痛み、のどや充血など結膜炎の症状が出る

・主な症状が消え、2日経過してから

主治医意見書の提出が必要ですが



○ ウイルスが便に排出され、感染するものもあります。オムツ替え時、注意が必要です。

園で感染症が発生した場合、メールでお知らせします。気になる症状があり受診の際は園の状態も医師にお伝えください。受け入れ時や登園後に上記の症状が見られた場合は、受診やお迎えをお預りする事があります。御理解、御協力をお願いいたします。

熱中症にも気をつけよう!

熱中症に関する事を玄関入った左側のホワイトボードに示しています。是非ご覧ください。重症になると生命にも関わりますので、不承不承な対策をし、暑い夏を乗り切りたいです。

お子さんの体調不良の際は「休まず」に受診する事が多いと思いますが、かかりつけの先生に診てもらった事で安心感があります。

ただ、症状によっては専門の先生に診てもらった方がいい場合もあります。例えば...

鼻水がずっと出る → その影響で中耳炎を起している事もあります → 耳鼻科
目やにや充血がある → 眼科で（目に傷や異物が入っていないか、ウイルス性の角結膜炎ではないか）を確認する場合も、専門医の受診をご検討ください。